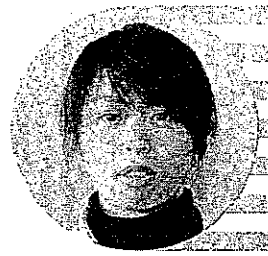


モモ・ヌモモ

佐賀県上場営農センター

前山 美和



秋季せん定を中心に、収穫後の管理を徹底しましょう。

七月中旬頃から八月にかけて、花芽分化の時期になり、来年に向けての準備に入っており、収穫後の管理が来年の花芽の充実に大きく影響します。

収穫が終わっても気を抜かず、病虫害防除や早期落葉させないように、定期的なかん水を行いましょ。

八・九月の管理

間伐・縮伐

この時期は、枝葉が繁茂しており、樹や園地の密植状態がわかりやすいので、秋季せん定に入る前に思い切った間伐・縮伐に取り組みましょ。品種や仕立て方、園地条件によって異なりますが、永久樹の間隔は六〜八mです。主枝の先端が重なっているようであれば、九月に主枝、亜

主枝単位で実施してください。

秋季せん定

今年の五月頃から収穫直前にかけて、新梢管理に取り組まれたことと思います。しかし、今月は花芽分化期の最中となるため、新梢管理は控えてください。

秋季せん定は、九月頃からは行います。ただし、極端に高温、乾燥が続くようであれば、時期を遅らせます。

この秋季せん定で、ある程度の枝を整理しておかないと、一二月からの冬季のせん定で除去する枝の量が多くなり、強せん定につながります。

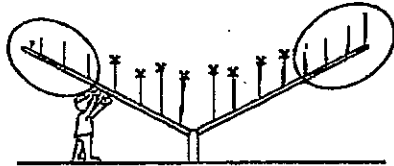
また、冬季せん定に偏ると、貯蔵養分の浪費となり、樹勢低下の原因となります。秋季からの計画

的なせん定に取り組みましょ。

秋季せん定では、主枝・亜主枝の背面から発生した1m以上の徒長枝など、来年の結果枝に日陰を作るような枝が対象で、基部を約10cm（五〜六芽）程度残してせん除します。

また、これまでに摘芯を行っていない場合は、摘芯後発生した新梢の副梢は、一々数本残してせん除します。秋季せん定の注意点ですが、

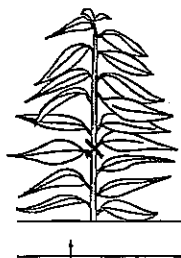
①主枝・亜主枝の先端部のせん定は行いません。（間伐樹、縮伐樹は行う）



およそ樹冠の中段以下、手が届く範囲内の徒長枝を切る。主枝や亜主枝の先端部にある徒長枝（線で囲んだ部分）は、樹の先端部まで養分を運ぶ役割を果たすので秋季せん定では切らない。冬季せん定で切れば翌春新梢が強く伸び出してきて、樹勢を維持させる。

第1図 秋季せん定の対象となる徒長枝

A：基部に小枝のない徒長枝の場合

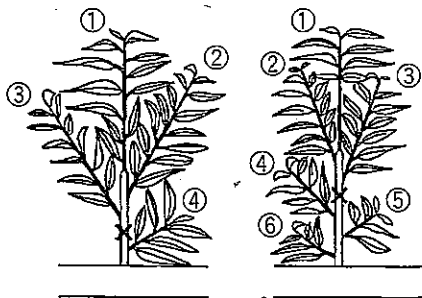


主枝および亜主枝

基部に副梢がなく、周辺からも発生していない徒長枝は、基部を5〜6芽残して切る

×印が切る位置

B：基部に副枝がある徒長枝の場合

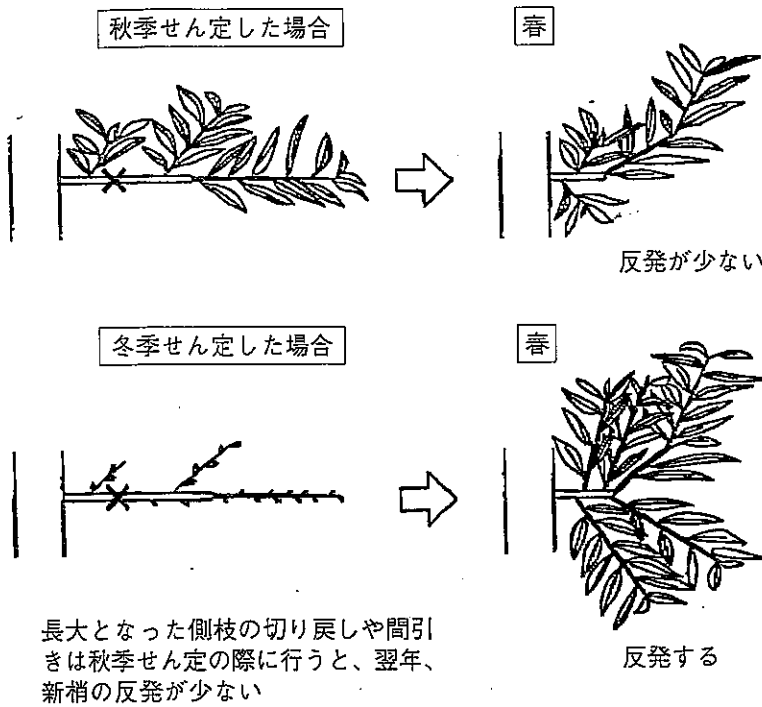


夏の間の新梢の摘心などにより、副梢が発生している場合は、基部の副梢を残して切る。数多く残しても混み合うだけなので、15cm以下の短い枝（図中の④⑤⑥の枝）を残して、あとはせん除する

第2図 秋に行う摘心、秋季せん定における徒長枝の切り方

「現代農業」より引用

②主枝・亜主枝の背面から発生した徒長枝は、切除後日焼けによる枯れ込みが心配されるため、ホワイト



第3図 秋季せん定、冬季せん定による、新梢の反発の比較
「現代農業」より引用

第1表 モモの施肥基準

(1)年間10a 当たり施肥量

(県基準)

10a 当たり収量	チ ッ ソ	リンサン	カ リ
0.5 t	3kg	2kg	2kg
1.0 t	6	3	4
2.0 t	10	5	8
2.5 t	15	8	12

(2)時期別割合 (目標収量2.5 t / 10a の場合)

チ ッ ソ	リン酸	カ リ	施肥時期別および配分割合		
15	8	12	基肥 (70%)	夏肥 (10%)	秋肥 (20%)
			10月中旬~11月中旬	収穫直後	9月上旬

(3)施肥上の注意

- ①基肥の施用は11月中旬までに終わる。
- ②マルチ栽培園では樹勢強化のため、有機物の補給に努める。

第2表 収穫後のモモ病害虫防除

対象病害虫	薬 剤 処 方	備 考
せん孔細菌病	デランフロアブル 600倍	
コスカシバ	スプラサイドM 100倍散布 ガットサイドS 原液塗布	葉にかからないように注意する。
ハダニ類	ピラニカ水和剤 1,000倍 ダニトロンフロアブル 1,000倍	薬剤抵抗性の発達を避けるため、同一系統のピラニカ水和剤とダニトロンフロアブルの連用は避ける。
モモハモグリガ	スプラサイド水和剤 1,500倍 ロディー乳剤 1,000倍 モスピラン水和剤 2,000倍	

土 場 管 理

③二年枝以上の枝をせん除する場合は、再発芽を防ぐため九月中旬以降に実施します。

モモ・スモモは比較的乾燥に強い作物と言われていますが、浅根性のため、高温・過乾燥が続くと樹勢が低下し、早期落葉につながります。有機物投入やワラなどでマルチをす

秋 肥 施 用

秋肥として、九月上旬に窒素主体の即効性肥料を年間施肥量の二〇％程度をめどに施用します。

ただし、新梢伸長が旺盛な場合は、施肥量を少なくするか、一〇月中旬からの基肥で対応してください。

とともに、高温乾燥が続く場合は、かん水を行ってください。

病 害 虫 防 除

収穫後の防除も、重要な管理の一つです。早期落葉すると、貯蔵養分の蓄積が不足し、来年の生産に大きく影響します。早期落葉させないためにも、せん孔細菌病、ハモグリガ、ハダニなどの防除は遅れないようにしてください。

また、園内にある腐れた果実は、灰星病の伝染源になるので、園外に

埋めるか、焼却処分してください。

コスカシバは、八月中旬頃が羽化のピークになるため、スプラサイドM一〇〇倍、またはガットサイドS原液を、葉にかからないように注意し、枝幹にむらなく散布または塗布してください。